

グラフ 皮疹の見方

水疱を呈する疾患

榑原代幸*

内容紹介

皮膚の症状のなかで水ぶくれを生じる皮疹を水疱という。水疱の種類や特徴を知ることによって、それを生じる疾患と結びつけることができると診断に近づくことができる。

本稿では、水疱の特徴による水疱の種類・分類ならびに経過による疾患の範疇を述べ、各論では日常診療で比較的良好に見かける疾患や特徴的な疾患を挙げて解説する。

はじめに

皮疹は目で認識しやすい変化なので、患者から訴えの多い病状である。皮膚に変化をきたす病状の中で水疱を呈する病変は紅斑や丘疹などと比べると少ないが、特徴的な皮疹でありその皮膚症状から診断に近づきやすいことが多い。どの皮疹にもバリエーションがあり診察時に典型的な皮膚症状を呈しているわけではないが、その当たりをつけることができれば診療の役に立つ。

I. 水疱について

1. 水疱とは

透明な水様性の内容をもつ皮膚の隆起で、直径5mm以上のものを水疱、それ未満の大きさのものを小水疱という¹⁾。

2. 水疱の種類・分類

1) 内容物による名称

内容物の成分は血漿成分や細胞成分などが主であるが、とくに血液を含んで紅色を呈するものを血疱という²⁾。水疱の内容物が血漿成分であるとフィブリンを多く含み、時間の経過とともにゲル状に変化する³⁾。また、漿液性の水疱内容物がのちに膿性(膿性水疱)または血性(血疱)となることがある⁴⁾。

2) 水疱蓋の状態による分類

水疱の天蓋である被膜が弛んでいるものを弛緩性水疱という。病理学的には表皮有棘細胞の解離による表皮内水疱で、破れやすい特徴がある。疾患としては天疱瘡、伝染性膿痂疹などが挙げられる。

一方、水疱の天蓋である被膜が厚く、緊満(張)している水疱は緊満性水疱と呼び、病理学的には表皮下水疱である。被膜が厚いため弛緩性水疱と比べ水疱は破れにくく、内容物がたまり水疱は緊満する。表皮下水疱を呈する疾患としては類天疱瘡や疱疹状皮膚炎などがある。

ウイルス性水疱はしばしば中央に陥凹(中心臍窩)を伴い、痘瘡様水疱という。手掌足底などでは表皮内の隆起のない小水滴として見え、汗疱状水疱と表現する。

角層内に見られるものを角層下水疱と呼び、落葉状天疱瘡などでみられる¹⁾。

—Key words—

皮疹, 皮膚病変, 水疱

* Noriyuki Sakakibara : 旭ろうさい病院皮膚科 主任部長 / 愛知県皮膚科医会 理事

表 1 水疱を生じる代表的な皮膚疾患

分類	主な疾患
湿疹・皮膚炎	接触皮膚炎
紅皮症	Stevens-Johnson 症候群
薬疹	固定薬疹, 中毒性表皮壊死症 (TEN)
血管炎	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
膠原病	水疱型エリテマトーデス
物理・化学的皮膚障害	熱傷, 凍瘡, 褥瘡
光線性皮膚疾患	日光皮膚炎, 種痘様水疱症
水疱症	尋常性天疱瘡, 落葉状天疱瘡, 水疱性類天疱瘡, 疱疹状皮膚炎, 表皮水疱症
角化症	表皮融解性魚鱗癬
代謝異常症	先天性骨髄性ポルフィリン症, 晩発性皮膚ポルフィリン症
母斑症	色素失調症
感染症	水痘, 帯状疱疹, 単純ヘルペス, 手足口病
動物などによる疾患	虫刺症

文献3)引用, 改変

II. 水疱を呈する疾患

水疱を生じた原因は診断と治療に直結するため, その原因の検討は重要である。急性の経過であれば, 物理・化学的要因や感染性などが考えやすく, 慢性の経過であれば水疱症や血管炎, 代謝異常症などが考えられる。水疱を生じる代表的な疾患を表 1 に示す³⁾。

III. 各論(代表的な疾患, 症状, 鑑別疾患など)

1. 異汗性湿疹

湿疹の一型である。典型像は, 手足や手足指に単房性から多房性の小水疱を生じる(図 1)。教科書的には搔痒が強いと記載があるが, 搔痒を生じないこともある。白癬との鑑別を要する。

2. 熱傷

温熱による皮膚障害である。熱傷の皮膚への深さでの分類で第 2 度熱傷では水疱, 紅斑, 色素沈着, びらん, 潰瘍などを生じる(図 2)。受傷の記憶があれば診断は難しくない。(遠)赤外線ヒーター, ホットカーペット, 湯たんぽなどによる熱

傷のときに, 患者は受傷したと思っていないこともあり, こちらから問診を追加することにより診断に至ることがある。

3. 尋常性天疱瘡

表皮細胞の細胞間接着分子であるデスマogleイン 1 やデスマogleイン 3 に対する自己抗体を生じる自己免疫性疾患である。臨床像は, 口腔粘膜の難治性びらん, 皮膚病変としては弛緩性の水疱と難治性びらんなどを生じる。

4. 水疱性類天疱瘡

皮膚の基底膜部のヘミデスモソームを形成している BP180 (XVII 型コラーゲン) の NC16a ドメインや, BP230 蛋白に対する自己抗体によって生じる。臨床像としては緊満性の水疱と搔痒の強い浮腫性紅斑を呈することが多い(図 3)。完成された臨床像を見ればこの疾患を思い浮かべることは難しくない。しかし病初期の場合, 皮膚搔痒のみ, あるいは湿疹様症状や腫れぼったい紅斑を呈することがあり, この時期の診断は難しい。



図1 83歳女性 左手掌 異汗性湿疹
直径1mm前後の平らからやや盛り上がる小水疱と鱗屑がある(筆者提供)



図2 27歳男性 左手首 熱傷
熱い油がかかって受傷 緊満性水疱と紅斑、色素沈着がある(筆者提供)

5. 帯状疱疹

水痘罹患後、一般には数年以上して神経節に潜伏していた水痘・帯状疱疹ウイルスの再活性化により生じる疾患である。右もしくは左のみの一側の神経支配領域に沿って紅斑、浮腫性紅斑、小水疱、疼痛を呈する特徴がある。皮疹を呈すればこの疾患の診断はし易いが、疼痛だけの症状のときはごく初期の帯状疱疹かごく軽症の帯状疱疹か、他の疾患か判断が難しい。水疱を含めた皮疹の分布・配列でこの疾患を考えるが、限局性の小水疱を生じたときは単純疱疹や虫刺症、接触皮膚炎などとの鑑別が必要となる(図4)。水疱から水痘・帯状疱疹ウイルス抗原を検出するキットがあり診断に役立つが、古い水疱からの抗原検査では陰性になることがある。

6. 単純疱疹

単純ヘルペスウイルスによるウイルス感染症である。口唇や口囲、外陰部や殿部などに小水疱を呈することが多い。繰り返すことも多く、経過と臨床症状から診断に至ることが多い。手指に単純ヘルペス感染を生じるヘルペス瘰癧や、帯状疱疹

の皮疹が一部の領域のみに小水疱を呈したときなどは、診断が難しい。水疱から単純ヘルペス抗原を検出するキットがあり診断に役立つ。

7. 白癬

白癬は白癬菌による感染症である。臨床症状として、掻痒、角質肥厚、亀裂、紅斑、水疱、びらん・潰瘍などその皮疹は多彩である。一方、手足などに水疱を生じたときは、この疾患を考えるに難くない。異汗性湿疹と似た臨床症状でもあり、鑑別を要する。異汗性湿疹を生じたあとに白癬を続発することも多く、注意を要する。

8. 虫刺症

虫刺症は虫(昆虫やダニなど)の毒棘や針などによって皮膚に異物が侵入し、皮膚症状を呈する疾患の総称である。虫刺症によっては水疱、小水疱を呈するものもある(図5)。水疱を作らず紅斑や丘疹を作ることも多い。患者の反応性と虫の毒によって皮膚の反応はかなり異なることがある。



図3 83歳女性 右足背 水疱性類天疱瘡
緊満性水疱があり周囲にわずかに紅斑がある(筆者提供)



図4 9歳女児 左前腕内側 帯状疱疹
この部分のみに皮疹を生じたため、単純ヘルペス、接触皮膚炎、虫刺症などが鑑別に挙げられた(筆者提供)

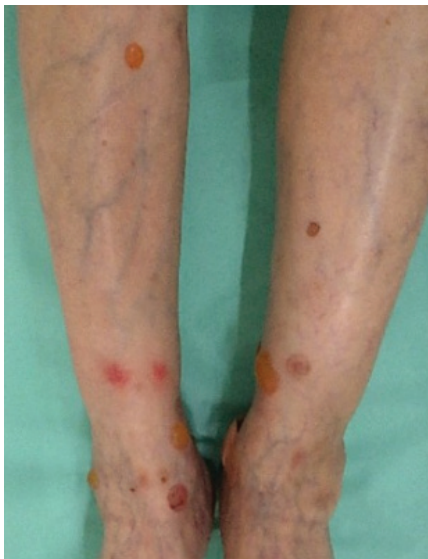


図5 83歳女性 両下腿 猫ノミによる虫刺症
猫を数匹飼っていてノミが跳ねていた1年前の夏にも同様の症状があった(筆者提供)

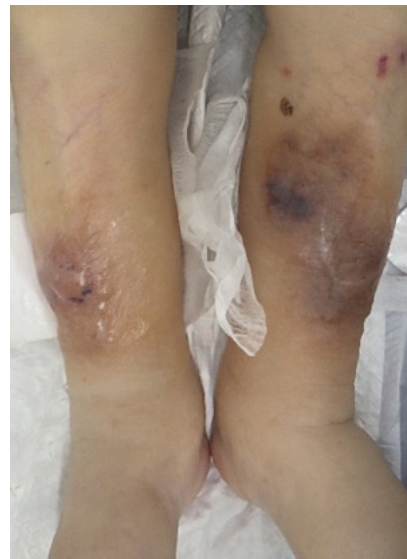


図6 96歳女性 両下腿
うっ血性心不全があり浮腫が続き、その後水疱を生じた(筆者提供)

9. 浮腫に伴う水疱

多くは浮腫をきたした下腿に水疱を生じることが多い。やや小さな水疱が散在することもあるれば大きな水疱を生じることもある(図6)。全身の皮

膚の浮腫をきたしているときは、四肢体幹に水疱をきたすこともある。浮腫をほとんど呈していない下腿に水疱を呈することもある。

おわりに

患者や患者周囲の人は水疱ができたり水疱が破れたりすると恐怖感を持つことがあり、訴えが強くなることがある。水疱が破れたり、水疱を呈していないが皮膚のびらん潰瘍からの滲出液が出たときに、膿が出たということもある。また、浮腫があったり腫れぼったい紅斑を水が溜まったと表現する人もいる。患者や患者周りの人の言っている皮膚の変化が本当に水疱であるのかそうでないのかを見定める必要がある。

水疱は特徴的な皮疹で診断の役に立つ症状である。一方、水疱を生じる疾患はかなり多くある。水疱を生じる疾患を網羅することは難しいが、日常診療でよく見かける疾患はある程度限られてく

る。典型的な臨床症状とバリエーションを思い浮かべることによって、診断と治療に結びつける一助になれば幸いである。

利益相反

本論文に関して、筆者が開示すべき利益相反はない。

文献

- 1) 岩月啓氏, 他: 標準皮膚科学 第11版. 医学書院, 東京, 2020; 45-46.
- 2) 清水宏: あたらしい皮膚科学 第3版. 中山書店, 東京, 2018; 67.
- 3) 宮地良樹, 他: 皮膚疾患診療実践ガイド 第3版. 文光堂, 東京, 2022; 18-19.
- 4) 西山茂夫: 皮膚病アトラス 第5版. 文光堂, 東京, 2004; 24-27.